

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2017 年 7 月 4 日 (火) 1 限 実施

前期②考查

千葉県立長生高等学校 第 3 学年 全組

Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

連絡！

片岡実施、3 年対象の夏季進学課外講座の日程に誤りがありましたので訂正いたします。

325 迷わず日本思想特講 誤：7/21,24,25,26,8/1,2 正：7/21,24,25,26,31,8/1

326 現代社会倫理分野概説 誤：7/21,24,25,26,8/1 正：7/21,24,25,26,31

倫 理

(解答番号 [1] ～ [50])

第1問 次の文章を読み下の問い(問1～問8)に答えよ。(配点 26)

アリストテレスはマケドニアの医家に生まれ、プラトンに学び、古代ギリシア哲学を集大成した。精緻な観察にもとづいた生物学的業績で知られるが、関心の広さから (a)「万学の祖」とも称される。少年時代のアレクサンドロスを教育し、彼の即位とともにアテネにもどり、学園を創設した。散歩をしながら講義を行ったので [1] 学派とよばれる。アレクサンドロスの死後、(b)マケドニアに帰国し、翌年没した。

アリストテレスは、アカデメイアでプラトンに学び、はじめ師の哲学を継承したが、やがて『[2]』などをあらわしてイデア論を批判し、現実を重視する思想を展開するようになった。

アリストテレスは、現象すなわち具体的な個々の事物のなかに、むしろプラトンのいうイデアが [3] すると思った。たとえば、美のイデアはそれ自体で独立して存在するのではなく、美しい人や美しい花のなかにあって、それらを美しくさせている本質なのである。

アリストテレスは、イデアに相当するこの本質を形相(エイドス)、素材を質料(ヒュレー)とよび、真の实在は現実の個物にほかならず、それは形相と質料から成っているとした。たとえば、ヘルメス(ギリシャ神話に登場する神)の彫像の場合では、[4] が質料であり、美しいその姿が形相なのである。

問1 文章中の空欄 [1] ～ [4] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[1] ⎧ ① アカデメイア ② ペリパトス
 ⎨ ③ リュケイオン ④ キュニク

[2] ⎧ ① 形而上学 ② 国家
 ⎨ ③ パイドン ④ 饗宴

[3] ⎧ ① 遍在 ② 内在
 ⎨ ③ 偏在 ④ 超越

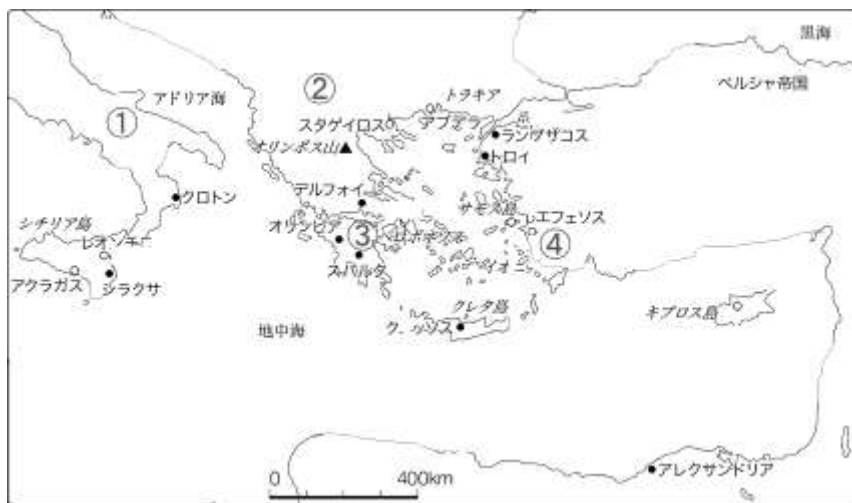
[4] ⎧ ① 神話 ② 大理石
 ⎨ ③ 名前 ④ 肉体

問2 下線部(a)に関して、下の文中の空欄 [A] ～ [B] に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。[5]

アリストテレスは、広く人間の知能の所産、あらゆる学問技術を見渡しながら、そうした知能を「見ること」と「行うこと」と「作ること」の三つに大別し、これに応じて、当時ありえた学問技術を三つに大別した。そして、[A] よりも [B] を [B] よりもさらに [C] の学を優位においた。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| ① [A] 理論 [B] 実践 [C] 制作 | ② [A] 理論 [B] 制作 [C] 実践 |
| ③ [A] 制作 [B] 理論 [C] 実践 | ④ [A] 制作 [B] 実践 [C] 理論 |
| ⑤ [A] 実践 [B] 制作 [C] 理論 | ⑥ [A] 実践 [B] 理論 [C] 制作 |

問3 下線部(b)に関連して、マケドニアの位置として適当なものを、次地図の①～④のうちから一つ選べ。[6]



問4 アリストテレスが定式化した三段論法式の具体的な例（真偽は問わない）として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[7]（1999年センター本試改題）

- ① 太郎がいれば花子は笑う。花子は笑っていない。ゆえに、太郎はいない。
- ② これまで発見されたどのカラスも黒い。ゆえに、カラスは黒い。
- ③ 太郎がいれば花子は笑う。花子は笑っている。ゆえに、太郎はいる。
- ④ すべてのカラスは黒い。この鳥はカラスである。ゆえに、この鳥は黒い。

問5 次のアリストテレス著作の文中の空欄 [8] に入る最も適当な語を、下の①～④のうちから一つ選べ。

個々の感覚的 [8] には、定義もなく論争も存しないのである。そのゆえは、これら感覚的個物はそれぞれその質料を有し、しかもその質料なるものは、本来、これを有するがゆえに当の感覚的個物が存在することも存在しなくなることも可能なものであるゆえんのものだからである。そしてこのような可能なものであるがゆえに、個々の感覚的 [8] はすべて消滅的なものなのである。

- | | | | |
|------|------|------|------|
| ① 観念 | ② 普遍 | ③ 形相 | ④ 実体 |
|------|------|------|------|

問6 次のアリストテレスについての文中の空欄〔 9 〕〔 10 〕に入る最も適切な語を、下の①～④のうちから一つずつ選べ。

〔 9 〕と訳される原語 *dynamis* は「能力」「性能」という意味を持ち、古代ギリシア数学では英語で *Power* と訳される「冪（べき）」「累乗」の意味にも用いられ、また近代物理学の *dynamics*（力学）の語源でもあるが、この語が〔 10 〕と訳される原語 *energeia* に対照的に使われるようになったのはアリストテレスの頃からである。今日一般に用いられる「内容と形式」「可能性と現実性」という思惟のカテゴリーはアリストテレスがあらゆるものごとの存在と生成・運動を静的には質料と形相の結合とし、動的には〔 9 〕の〔 10 〕への転化として理解し説明すべきだとしたのにはじまる。

- ① 質料因 ② 形相因 ③ 現実態 ④ 可能態

問6 次の文はアリストテレスの著作『詩学』の一節である。文中の空欄〔 11 〕に入る最も適切な語を、下の①～④のうちから一つ選べ。

悲劇とは、一定の大きさをそなえ完結した高貴な行為の再現／模倣（ミメシス）であり、快い効果を与える言葉を使用し、しかも作品の部分部分によってそれぞれの媒体を別々に用い、叙述によってではなく、行為する人物たちによっておこなわれ、あわれみとおそれを通じて、そのような感情の〔 11 〕を達成するものである。ここで快い効果を与える言葉とは、リズムと音曲を持った言葉のことを、またそれぞれの媒体を別々に用いるというのは、作品のある部分は韻律のみによって、他の部分はこれに反し歌曲によって仕上げることを意味する。

- ① カタルシス ② カロカガティア ③ カテゴリーズ ④ ロゴス

問7 上のアリストテレスの著作『詩学』は、彼の学問の分類からするとどのジャンルにあてはまるか。最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。〔12〕

- ① 実践学 ② 制作学 ③ 理論学 ④ 論理学

問8 次の文はアリストテレスの著作『自然学』の一節である。文中の空欄〔 13 〕に入る最も適切な語を、下の①～④のうちから一つ選べ。

最も明白に自然の〔 13 〕性の認められるのは、動物においてである。それらは技術によってでもなく、探究したり考慮したりしてでもなしに、仕事をするものである。だが、この方向に少しずつ歩を進めると、植物のうちにもその〔 13 〕にむいているものの生じていることが明らかになる。たとえば、木の葉が果実を覆い守るために生えるなどそれである。したがって、もしツバメが巣を作り、蜘蛛が網を張り、また植物がその果実のために葉を生やし、栄養をとるために根を下におろすなどが自然によってあるとともに、なにかのためにでもあるとすれば、自然によって生成し存在する物事のうちにこうした〔 13 〕が存することは明白である。

- ① 目的 ② 原因 ③ 自発 ④ 受動

第2問 次の文章を読み下の問い（問1～問4）に答えよ。（配点 14）

アリストテレスの [14] 主義的な立場は、人間としての生き方についても見られる。彼は、(a)幸福こそがあらゆる人間の最終目標であり、最高善であるとした。では、その幸福とは何か。

彼によれば、人間を人間たらしめているのは、人間に固有のはたらきである理性であるから、理性の活動を完成することが最高の幸福であり、最高善である。人間の生活は享樂的生活・政治的生活・観想的生活に分類され、それぞれに [15]・[16]・[17] という善が対応する。そのなかでは、真理を探究する観想的生活が、「最善なるもの（理性）がそれに固有な徳を備えてする活動」としてもっとも望ましいものである。

問1 文章中の空欄 [14] ～ [17] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[14]

① 相対	② 現実
③ 理想	④ 道徳

[15]

① 欲求	② 名誉
③ 知恵	④ 快樂

[16]

① 欲求	② 名誉
③ 知恵	④ 快樂

[17]

① 欲求	② 名誉
③ 知恵	④ 快樂

問2 文中の下線部（a）に関して、幸福と訳されるギリシア語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[18]

① ΑΓΟΡΑ ② ΕΥΔΑΙΜΟΝΙΑ ③ ΒΙΒΛΟΣ ④ ΔΙΚΗ

問3 上の文の内容を説いたアリストテレスの著作として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[19]

① エチカ ② ニコマコス倫理学 ③ 実践理性批判 ④ 公正としての正義

問4 次の文章はアリストテレスの著作からの引用である。この文章中の空欄 [A] [B] に入る語の組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[20]

[A] 的生活にいたってはいわば強要のもとに営まれる生活であり、[B] がわれわれの求める善でないことは明らかであろう。[B] は何かのために役立つもの、それ以外のもののために存するものでしかない。

① [A] 蓄財 [B] 富 ② [A] 共生 [B] 愛
③ [A] 隠遁 [B] 平静 ④ [A] 禁欲 [B] 自然

第3問 次の文章を読み、下の問い（問1～問5）に答えよ。（配点 16）

さらに、アリストテレスは人間の魂を (a) 理性的な領域と感情・欲望の領域との二つに分け、それに対応させて、徳を知性的徳と [21] 的徳に分類した。

知性的徳は観想的生活に即した徳であり、[21] 的徳は、(b) 知性的徳に導かれた正しい行為のくり返しによって習慣づけられる (c) 習性的徳である。感情・欲望とつながりをもつ日常生活においては、(d) 過度と不足の両極端を避けて、その [22] を選ぶことをくり返し、[21] 的徳を形成していくことが求められる。アリストテレスは、徳を習得するためには、それを知るだけでは十分ではなく、それがくり返されて習慣となることが必要であると考えたのである。

問1 文章中の空欄 [21] ～ [22] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [21]

① 感性	② 気概
③ 現実	④ 倫理

- [22]

① メソテース	② ミメーシス
③ フェノメノン	④ フロネーシス

問2 下線部(a)の理性的領域に関して、アリストテレスが書いた次の文が示す論理の内容として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[23]

このような原理がなによりも最も確かなものであることは明らかである。それは「同じものが、同時に、また同じ事情のもとで、同じものに存続しかつ存続しないということは不可能である」という原理である。これがすべての原理のうちで最も確かな原理である。何人も「同じものがありかつあらぬ」と信じることは不可能だから、たとえある人々はヘラクレイトスがそう言ったと思っているにしても。あるドクサ（意見・判断）に対して逆にこれを否定する判断がそうした「反対のこと」とであるとすれば、同じ人が同じものをあると信じると同時にあらぬと信じることの不可能であることは明白である。なぜなら、この点であやまるなら、その人は二つの相反するドクサを同時に抱くものとなろうからである。それゆえ、およそ論証をするものはすべて、この原理（矛盾律）を論証の終極のドクサとしてその論証をこの原理まで還元する。なぜならこの原理はその本性上、他のすべての公理にとってさえ、それらの原理なのだから。

- ① ある事象について、二つの相反するものにその中間は存在しない
- ② 自分自身と一致しているべきものは、自己同一的に存在している
- ③ 存在するあるものがそれ自身と同一であるという場合、最低限必要な性質がある
- ④ ある事物について同じ観点でかつ同時に、それを肯定しつつ否定することはできない

問3 下線部(b)に関して、そのような知性的徳として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[24]

- ① 認識 ② 思慮 ③ 知恵 ④ 技術

問4 下線部(c) に関して, 習性を意味するギリシア語として最も適当なものを, 次の①～④のうちから一つ選べ。[25]

- ① エネルゲイア ② エートス ③ エイドス ④ ヒュレー

問5 下線部(d) に関して, 次のアリストテレスの著作からの引用文中の[26]～[28]に入る語として最も適当なものを, 下の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

[26] は規模の大きさを予想する。自分を自らの値以上の大きい価値があると考え人は虚栄の人である。また, 自らの値する以下の価値しかないように考える人は卑屈な人である。

滑稽が度を超えるひとびとは, あらゆる仕方であら滑稽ならざることをおそれ, 猥雑ならぬことがらを語ろうとか, 揶揄される相手方に苦痛を与えないようにしようとかいうことよりも, むしろひたすらに笑いを誘うことを目標とするものなるがゆえに, 彼らは道化者であり, 卑陋な人々であると考えられる。これに反して, 自分も全く滑稽なことをいわないし, 滑稽なことを口にする人々に対して腹を立てるといふときは, 野暮な堅苦しい人々であると考えられる。調子のとれた冗談で楽しませる人は [27] 的なひとと呼ばれる。すなわち「円転自在な」ひとという本来の意味である。

快樂に関する超過が放埒であり, それは非難されるべきものであることは明らかである。

[28] 的な人は快の欠如とか快を慎むこととかを苦痛としないがゆえに [28] 的な人なのである。

- ① 鷹揚 ② 機知 ③ 穏和 ④ 矜持 ⑤ 勇気 ⑥ 節制

第4問 次の文章を読み、下の問い（問1～問5）に答えよ。（配点 20）

アリストテレスは、たくさんの倫理的徳のなかでも、正義と (a)友愛を重視した。「人間は本性上、[29] 的動物である」という彼のことばの意味は、幸福も人間としての徳も、[29] の生活においてのみ実現されるのであり、[29] をはなれて人間の生活は成り立たない、ということである。[29] における共同生活は、理性と情意の二つの面でかたく結びつけられることで成り立つ。そして、共同生活を理性で結びつける原理が正義であり、情意で結びつける原理が友愛なのである。

アリストテレスは、(b)正義を [30] という「全体的正義」と、財貨の分配や交換にかんする公正を意味する「部分的正義」とに大別した。

一方、社会生活を営む人間にとって、もっとも大切なのは友愛である。友愛とは、同好の者どうしがたがいに相手に対していただく好意のことで、完全な友愛は [31] にもとづく愛である。アリストテレスは、共同体にあっては友愛があれば正義は不要であるとし、友愛にもとづいた和合の実現こそ、最大の正義であるとした。

問1 文章中の空欄 [29] ～ [31] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|------|---|---------|-----------|
| [29] | [| ① ロゴス | ② アゴラ |
| | | ③ ストア | ④ ポリス |
| [30] | [| ① 善を勧める | ② 法を守る |
| | | ③ 悪を倒す | ④ 魂を調和させる |
| [31] | [| ① 知恵 | ② 善 |
| | | ③ 有用性 | ④ 快樂 |

問2 下線部(a)に関して、友愛を意味するギリシア語として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[32]

- ① ΦΙΛΙΑ ② ΑΓΑΠΗ ③ ΕΡΩΣ ④ ΣΟΦΙΑ

問3 下線部(b)に関して、次のアリストテレスの説明があらわす正義として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[33]

「正」とはかくして、このこと、つまり比例的ということであり、「不正」とはこれに反して比例背反的ということである。だからして、不正の行われる場合には、あるいは過多が、あるいは過少が生じるわけであって、まさしくこのことがことごらの実際において現れている。すなわち不正をはたらく方の人は過多なる善を、不正をはたらかれる方の人は過少な善を得ているのであって、悪についてはこの逆であるというのは、より小さい悪はより大きい悪に比すれば善といえるものだからである。

- ① 全体的正義 ② 公正としての正義 ③ 調整的正義 ④ 配分的正義

問4 さらに下線部(b)に関して、次の正義についてのアリストテレスの説明があらわす正義として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[34]

相互交渉における正義は、むろんある何らかの均等であり、したがってまたこの意味での不正は、不均等でありはするが、しかし配分においてのような比例に即しての均等ではなくて、算術的比例に即しての均等すなわち平均である。というのは、たとえ善い人が悪い人から搾取しようと、悪い人が善い人から搾取しようと、また善い人が姦淫を犯しても悪い人が犯しても、そこには何らの差別もなく、ただそれぞれのこうむった害悪の程度の差のみが法の顧慮するところで、法は彼らを均等に取り扱っている。だから裁判官はこの意味での不正を均等化しようと努める。それは、この種の不正に不均等が存するからである。

- ① 全体的正義 ② 公正としての正義 ③ 調整的正義 ④ 配分的正義

問5 アリストテレスの『政治学』からの引用文中の空欄[35]～[38]に入る最も適当な語を、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

明らかに、およそ[35]を追求する国制はいずれも、全般的な正義にかなっているがゆえに、結局、正しい国制であるが、ただ支配者たち自らの私利私欲のみを追求するそれらはすべて誤った国制であり、正しい国制の道を踏み外したものどもである。というのはそれらは独断専制的だからである。しかるに、国家はもともと自由人の共同体なのだから。

それぞれの国制からその道を踏み外したものとしては、[36]が王制からの踏み外しであり、[37]が貴族政治からのそれであり、[38]がポリテイア（共和制）からのそれである。というのは、[36]はその独裁者1人の利益を目指し、[37]政治は富者のそれだけを目指し、[38]政治は貧民のみの利益を目指すもので、これらはいずれも[35]になるものをめざしてはいないからである。

- [35] ⎧ ① 民衆の利益 ② 国民共通の利益
 ⎨ ③ 病者の利益 ④ 国家の利益

- [36] ⎧ ① 哲人政治 ② 寡頭政治
 ⎨ ③ 僭主政治 ④ 民主政治

- [37] ⎧ ① 哲人政治 ② 寡頭政治
 ⎨ ③ 僭主政治 ④ 民主政治

- [38] ⎧ ① 哲人政治 ② 寡頭政治
 ⎨ ③ 僭主政治 ④ 民主政治

第5問 次の文章を読み、下の問い（問1～問6）に答えよ。（配点 24）

全ギリシアを支配したマケドニア王国は、アレクサンドロス大王のとき東方遠征を開始し、(a)世界国家（コスモポリス）を建設してヘレニズム時代をもたらした。ポリスのきずなを失った人間は、ひたすら〔 39 〕の心の中に幸福を求めていった。この要求にこたえた代表的な思想がエピクロス派とストア派であった。両者の主張は、快楽主義と禁欲主義というかたちで表面的には対立して見えるが、賢者の理想を個人の魂の自由と幸福に求めた点で共通していた。

エピクロスを祖とするエピクロス派の人びとは、個人の快楽の追求こそ幸福である（快楽主義）と説いた。しかし、真の快楽は刹那的・享乐的なものではなく、永続的・精神的な心の安らかな状態であると考え、〔 40 〕を得ることを賢者の理想とした。「〔 41 〕」という彼らの信条は、政治のわずらわしさや社会の雑踏から遠ざかって、もっぱら内面の静けさと安らぎを守る、質素な生活を理想としたのである。

これに対して、ゼノンを祖とするストア派の人びとは、あらゆる (b)情念をおさえ、理性によって自己の欲望に打ち克つという禁欲主義の立場に立って、〔 42 〕に徹することを賢者の理想とした。彼らは「〔 43 〕」を信条としたが、それは、人間のもって生まれた本性である〔 44 〕に従って生きることが、あらゆる情念から解放され、世の移り変わりから独立して自由であることを可能にすると考えたからである。また、理性を等しくわけ与えられているかぎり、人間はすべて〔 45 〕であるというストア派の理想は、ポリスにしばられない世界市民（コスモポリテース）としての生き方を生み出し、ローマ万民法（民族の違いを超えて適用される法）の成立に大きな影響を与え、(c)近代自然法思想の一つの源流となった。

問1 文章中の空欄〔 39 〕～〔 45 〕に入れる最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [39] ⎧ ① 共同体 ② 個人
 ⎨ ③ ヘレネス ④ バルバロイ

- [40] ⎧ ① アウタルケイア ② アパテイア
 ⎨ ③ アタラクシア ④ アトマ

- [41] ⎧ ① 自然に従って生きよ ② 正しく善く生きよ
 ⎨ ③ 犬のように生きよ ④ 隠れて生きよ

- [42] ⎧ ① アウタルケイア ② アパテイア
 ⎨ ③ アタラクシア ④ アトマ

- [43] ⎧ ① 自然に従って生きよ ② 正しく善く生きよ
 ⎨ ③ 犬のように生きよ ④ 隠れて生きよ

- [44] ⎧ ① パトス ② プシュケー
 ⎨ ③ ロゴス ④ アレテー

- [45] ⎧ ① 平等 ② ギリシア人
 ⎩ ③ 自由 ④ ポリス的

問2 下線部(a)に関して、次の文の著者として最も適当なものを下の①～④のうちから一つ選べ。[46]

もし叡智が我々に共通なものならば、我々を理性的動物となすところの理性もまた共通のものである。であるならば、我々は世界市民である。であるならば、我々は共にある共通の政体に属している。

- ① セネカ ② マルクス・アウレリウス ③ エピクテトス ④ キケロ

問3 下線部(b)に関して、情念をあらわす語として最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。[47]

- ① コスモス ② パトス ③ カオス ④ ロゴス

問4 下線部(c)に関して、自然法の説明としてもっとも適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[48]

- ① 理性を本性とする人間が従うべき法
② 人間が自然に定めている法
③ 科学によって自然の中に見いだす法
④ 国家の根本原理を示した法

問題は次のページに続きます。

問5 次の文が説明する人物として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[49]

キュニコス(犬儒)学派の代表的人物で、若いころ黒海沿岸のシノペで贗金作りをしており、発覚してアテナイに亡命したが、その後も精神的な意味での贗金作り、つまり公認の価値と異なった価値の創造を行ったといわれている。アンティステネスの学統を受け継ぎ、いっさいの物質的虚飾を排し、最小限の生活必需品だけで生きる自然状態こそ、人間にとって最高の幸福だとした。衣服をつけず、靴もはかず、野犬のように街頭に寝泊りし、樽を棲家とし、公衆の面前で女性と交わったという。「恥をなくすこと」(アナイデア)によって、あらゆる因襲、権威から解放されること、これが魂の自足(アウトアルケイア)を目ざす彼の哲学的実践であった。その弟子テーバイのクラテスは師説を広め、無所有こそ、いっさいの苦しみ、葛藤から逃れる秘訣とし、後のストア学派の前触れとなった。

- ① ディオゲネス ② ヘラクレイトス ③ プロティノス ④ ゼノン

問6 新プラトン主義の説明として**適当でないもの**を次の①～④のうちから一つ選べ。[50]

- ① 一者は〈第一なるもの〉または〈善〉と呼ばれ、それ自体はまったく単純なものでありながら、その中にありとあらゆる多様性を潜在的に含んでいる。これは完全な充実であり、あらゆる認識、生命、本質、存在を超越する。
- ② 〈一者〉から〈叡智〉が、〈叡智〉から〈魂〉が、あたかもあふれる水のように流出する。下のものは上のものと本質を同じくするが、勢いや力の劣った存在形態であり、三つの原理的なものは階層的秩序を保ちながら、しかも連続している。
- ③ 階層的秩序の中にあって、下のものは上のものの映し、または表現であり、下降形態であるから、下のものは上のものの本性をもち、それを通じて上のものと交流することができる。上のものが下に影響するだけでなく、下のものも上に影響することができる。人間はこれによって上のもの、つまり神霊や神々と結びつくことができるのである。
- ④ 天国の天使たちの間で序列上の地位が3段階に分かれるように、地上の世界で聖職者たちも、カトリックでは司教・司祭・助祭と、東方正教では主教・司祭・輔祭というように序列上の地位が分かれている。この地位の相違は神の栄光と啓示があらわれる段階的な地位の違いを示しており、高い地位ほど高い価値にかかわり高い権威をもつ。

これで問題は終わりです。